

ユネスコ無形文化遺産
男鹿のナマハゲ



各地区のナマハゲ面

「男鹿のナマハゲ」行事
国重要無形民俗文化財
ユネスコ無形文化遺産
◎大晦日の夜、男鹿市の全域で行われます。

戸賀・北浦
男鹿中
船川港
船本・船越
五里合
若美
大湯村

お面

ナマハゲのお面は
集落ごとに異なりますが、
その多様さは「ナマハゲ」の
魅力のひとつです。



※「なまはげ館」では150枚を超えるナマハゲ面が展示されています。
※ここに紹介するお面は現在行事に使用されていないものもあります。
※各地区の面の写真は、男鹿市・日本海域文化研究所・個人所蔵のものです。

男鹿真山伝承館

なまはげ館に隣接した、古い
男鹿の典型的な曲り屋民家を
移設した伝承館では、大晦日
の行われる地元真山地区のナ
マハゲ行事を体感できる学習
講座を開講。ナマハゲの迫力を
間近で感じることができます。

学習講座：約10分
開講日：毎日
開講時間は季節によって
異なります
お問い合わせ：男鹿真山伝承館
☎0185-3311101



ナマハゲ行事の再現

なまはげ館

ナマハゲに関する資料や
映像を見ることができま
す。ナマハゲの面や衣装は
地区によって様々ですが、
「一五〇」をこえるナマハゲ面
が一室に展示されている
勢ぞろいコーナーは圧巻
の見ごたえです。

開館日：年中無休
八時三十分～五時
お問い合わせ：なまはげ館
☎0185-2315050



なまはげ 柴灯まつり

真山神社で二月三日に行われる
「柴灯祭」と伝統行事「ナマハゲ」を
組み合わせた観光行事で、境内に
焚かれた柴灯火で丸餅を焼き、神
の使者であるナマハゲに献じます。
現代舞踏家石井漠振り付けによ
る「なまはげ踊り」や「なまはげ太
鼓」も見どころです。



なまはげ踊り

真山神社

十二代景行天皇の
時代創建と伝えら
れる、ナマハゲゆかり
の神社。樹齢千年余
りのかやの巨木や数
多くの植物が生育
するパワースポット
としても人気です。
お問い合わせ：真山神社
☎0185-3311101



発行／男鹿市 第6版 令和7年9月 改訂
平成23年度 文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
お問い合わせ／男鹿市文化スポーツ課
〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台 66-1 TEL 0185-24-9103

男鹿のナマハゲ

大晦日の晩、青年たちがナマハゲに扮して、「泣く子はいねがし、親の言うこと聞がね子はいねがし」などと大声で叫びながら家々を巡ります。

男鹿の人々にとってナマハゲは、怠け心を戒め、無病息災・田畑の実り・山の幸・海の幸をもたらす、年の節目にやってくる来訪神です。ナマハゲを迎える家では、昔から伝わる作法により料理や酒を準備して丁重にもてなします。

男鹿市内の「ナマハゲ行事」は、現在約七〇の町内で十二月三十一日の大晦日に行われています（令和六年）。昭和五十三年男鹿のナマハゲ」として国重要無形民俗文化財に指定、平成三十年には「来訪神・仮面・仮装の神々」として男鹿のナマハゲを含む全国十行事がユネスコ無形文化遺産に登録されました。



真山地区のナマハゲ行事



真山地区ナマハゲ入魂の神事

ナマハゲの語源

冬、囲炉裏で長く暖をとっていると、手足に火型（火斑）ができます。これを方言で「ナモミ」と言います。が怠け心を戒めるための「ナモミ剥ぎ」が「ナマハゲ」になったと言われています。



臈本大倉地区（昭和30年代）／倉貫由雄氏所蔵

衣装

「ナモミ」を剥ぎ落とすための「出刃庖丁」や地域によっては、神のしるしとしての「御幣（こへい）」を付けた杖を手に持って巡ります。



※大晦日のナマハゲ行事を観光客に公開する取り組みもあります。



面○木の皮、木の彫刻、ザルに紙を貼ったもの、紙粘土など様々な素材が使われています。最近ではプラスチック製や地元の木彫師による面も多く使われるようになりました。

ケデ○ワラ製のミノ状にした衣装。面とともに神に扮する象徴的な衣装です。ケダシ、ケンデ、ケラミノなどともいいます。

ハバキ○ワラで編んだ腰（すね）あて。これを着けるのは他所から来ることを意味します。

わらぐつ○雪中、遠くから来るためのワラ製の靴。

ナマハゲ伝説

◆漢の武帝説

昔ばなし「九百九十九段の石段」

中国の漢の時代、武帝は不老不死の薬草を求め五匹のコウモリに従えて男鹿にやってきた。五匹のコウモリは鬼に変身して武帝のために働いたが、ある日二日だけ休みを下さい」と武帝に頼み、正月十五日だけの休みをもらい村里に降りて作物や家畜、村の娘たちまでさらい、あばれまわった。困り果てた村人は武帝に「毎年ひとりずつの娘を差し出すかわりに、一番どりが鳴く前のひと晩で、鬼たちに海辺から山頂にある五社堂まで千段の石段を築かせてくれ。これができなかつたら鬼を再び村に降ろさないでほしい」とお願いした。ひと晩で千段は無理と考えた村人だったが、鬼たちはほとんど石段を積み上げていった。あわてた村人は、鬼が九九九段まで積み上げたところで、アマジャクに「コケッコ」と一番どりの鳴き声のまねをさせた。鬼たちは驚き、怒り、そばに生えていた千年杉を引き抜き、まっさかさまに大地に突き刺して山に帰って行き、二度と村へは降りてこなかった。

◆修験者説

男鹿の本山・真山は古くから修験道の霊場でした。時々、修験者は山伏の修行姿で村里に下りて、家々をまわり祈禱を行いましたが、その凄まじい修験者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見え、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異国の人々は、村人にとってはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。



五社堂へ続く石段



赤神神社五社堂（国重要文化財）

記録

柳田国男
折口信夫
岡本太郎

ナマハゲに関する記録で最も古いものは江戸時代の紀行家・菅江真澄（1754〜1829）の「牡鹿乃寒かぜ」です。そのなかで、文化八年（1811）正月十五日に訪れた男鹿の宮沢のナマハゲを身剥ぎ（ナモミハギ）として詳細な解説と絵を残しています。

菅江真澄
吉田三郎

そのほかナマハゲは、民俗学的見地から多くの研究の対象となり、柳田国男（1875〜1962）の「小正月の訪問者」や折口信夫（1887〜1953）の「まれびと」、また岡本太郎（1911〜1996）の「日本再発見」芸術風土記などに取り上げられています。

◆ナマハゲ訪問禁止

その年に不幸やお産があった家には、ナマハゲは入りません。病人のいる家も同様です。ナマハゲはこういった家では玄関先で門踏み（足踏み）をします。

◆ケデの効用

ナマハゲが家の中に入りあばれたときに落したケデのワラは、翌朝まで掃除をせずそのままにしておきます。そのワラを、頭や病気の患部に巻き付けると疾病平癒や無病息災を祈願できるという言伝えがあります。



漢の武帝に桃を捧げる図／赤神神社所蔵



仁井山地区ナマハゲ（撮影年不詳）

なまはげ柴灯まつり